魔神を倒す物語

木魂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔神を倒す物語

【Ｎコード】
Ｎ２５９１Ｚ

【作者名】
木魂

【あらすじ】
ビガンテ達が協力して魔神を倒す物語

地の王の眷属（前書き）

キャラ紹介

ビガンテ…地の王の眷属、下級悪魔
　ゲーム好き、悪魔なのに人間が好き
　使い魔に五十郎（ゴブリン）がいる
　この小説の主人公

五十郎（ゴブリン）…ビガンテの使い魔

メフィスト・フェレスト…正十字学園の理事長、祓魔塾の塾長でもある。
　その思惑は未だ不明である。

クロ…訳あって奥村燐の使い魔になった元々は藤本獅郎の使い魔だった。
　マタタビ酒が好物で『ひゃくにじゅういっさい』の猫又（ケット・シー）

奥村燐…藤本獅郎に育てられた魔神（サタン）の息子。
　魔神に藤本獅郎を仇を討つために祓魔師をめざす。
　勉強は出来ないけど料理の腕はプロ級。

奥村雪男…燐の双子の弟。
　最年少で祓魔塾の講師務める天才少年。
　生徒である燐の成績に頭を痛める日々。

杜山しえみ…祓魔用品店『フツマヤ』の娘。
　緑男（グリーマン）の幼生を召喚できる。
　料理の腕前は…。

勝呂竜士…京都の由緒ある仏教宗派・明陀宗の跡取り。
　見た目はヤンキーだがまじめな秀才である。

志摩廉造…勝呂の父の弟子であり、京都からの友人。
　基本的に女の子に弱い。
　虫にも弱い。

三輪子猫丸…勝呂の父の弟子であり、京都からの友人。
明陀宗の中の明家・三輪家の現当主。
神木出雲…巫女の血統で、祓魔師をめざす少女。
白狐を召喚できる。
可愛いものが好き。

地の王の眷属

俺は地の王アマイモンの眷属、下級の悪魔だ
今日は祓魔師になって魔神を倒すために正十字学園に来た。
俺は使い魔にゴブリンの五十郎がいる
まずは祓魔塾の塾長でもあり名門私立正十字学園の理事長で祓魔師の名誉騎士でもあるメフィスト・フェレストに会いにいった。
メフィストの部下「メフィスト様お客様でございます」
メフィスト「ごくろう」
？「失礼します」
メフィスト「ごけようけんは」
？「祓魔師になりたいのですが？」
？「ダメですか？」
メフィスト「よかろう　名前は？」
？「自分の名前はビガンテです！！」
メフィスト「おぉ、君は地の王アマイモンの眷属じゃないかね？」
ビガンテ「はいそうです」
メフィスト「まぁそれはいいとしてきみは次の日からでなさい！！
　奥村燐は魔神の子なでそこんとこよろしく」
ビガンテ「分かりました」
　～次の日～
雪男「奥村くん宿題は？」
燐「えっ宿題！！」
雪男「奥村くんまたですか？」
燐「すいません…」
雪男「まぁそれはいいとしてはいってきてください」
ビガンテ「初めましてビガンテと言います　こっちは使い魔のゴブリンの五十郎です。」
燐「よろしく」

子猫丸「よろしくお願いします」
志摩「よろしく〜」
勝呂「よろしく」
しえみ「よろしくおねがいします」
雪男「ビガンテくんとりあえず空いてる席に座ってください」
ビガンテ「はい」
奥村燐と杜山しえみの後ろの席に座った。

次回に続く

地の王の眷属（後書き）

2回目の投稿ですがまだ変な所があると思いますからご指摘ください
お願いします

高等部男子寮の旧館

ビガンテ「よろしくお願いします」
燐「よろしく俺の名前は奥村燐」
しえみ「私の名前は杜山しえみ　こっちはにーちゃん」
にーちゃん「ニー」
燐「まぁなかやくやろうぜ」
ビガンテ「うん！」
祓魔塾が終わったあとメフィストに呼び出された。
メフィスト「ビガンテ君祓魔塾は楽しいですか？」
ビガンテ「はい！！」
メイフィスト「君を呼び出したのは君泊るところありますか？」
ビガンテ「一応、木の上に段ボール家をつくりました。」
メフィスト「ハハハハハッ　一応高等部男子寮の旧館に空き部屋がありますよ」
ビガンテ「はい、わかりました高等部男子寮の旧館にいます」
メフィスト「ボソ…奥村兄弟しかいないけどな」
ビガンテ「なにかいいました？」
メフィスト「いや、なにも」
　～高等部男子寮の旧館～
ビガンテ「やっとついたぁ～　ここ広いよぉ～（泣）」
燐・雪男「外に誰かいる？」
燐「おぉ～ビガンテどうした？」
雪男「ビガンテ君どうしました？」
ビガンテ「メフィスト理事長にここを使っていいと言われたのできました…」
燐「ここ俺と雪男しか使ってないから良いよ（笑）」
ビガンテ「ハハハハ」
　～その日の夜～

ビガンテが眠れなくて屋上にいると燐があらわれた。
燐「ビガンテ眠れないのか？」
クロ「だれぇ～」
燐「あぁクロ、彼はビガンテだ」
ビガンテ「よろしく、クロ　そして奥村君はなんで寝ないの？」
燐「あぁいつもクロとここで遊んでるから」
クロ「りんはやく、あそぼぉー」
ビガンテ「あっそうだ」
ビガンテが口笛を吹いた
ビガンテ「ピィー」
そしたら鬼（ゴブリン）がでてきた。
燐「悪魔…！」
クロ「グルルルル」
ビガンテ「あぁ大丈夫だよ」
燐「何で？」
ビガンテ「俺の使い魔だからだよ」
燐「えぇマジで！！」
ビガンテ「うん、名前は五十郎って言うの」
～次回に続く～

新しい任務・前篇

ビガンテ「五十郎は僕の相棒で友達でもある」
燐「いつ友達になったんだ？」
ビガンテ「初めて日本にきたとき分からなかった時この子が助けてくれてそれからともだちになったんですでも鬼(ゴブリン)がなんで助けてくれたのか分かりません―（作り話）」
燐「へぇ～」
クロ「五十郎とあそんできていい？」
燐「うんいいぞってもう友達になったのかよ！！」
ビガンテ「五十郎遊んできていいよ」
燐「ビガンテなんで祓魔師になろうと思ったんだ？」
ビガンテ「実は魔神(サタン)に祓魔師だった両親を殺されたか魔神(サタン)を倒すために祓魔師になろうと思ったんです―（作り話）」
燐「おぉ、俺と一緒だな俺も魔神(サタン)を倒すために祓魔師になったんだ」
ビガンテ「おたがい魔神(サタン)を倒すために頑張りましょう」
燐「そうだな」
それから一時間がたった
ビガンテ「じゃあ僕はそろそろ寝ますね」
燐「おぉ、おやすみ」
ビガンテ「おやすみ五十郎戻るよ」
クロ「バイバイ」
燐「クロ、俺らも寝るか？」
クロ「うん」
～次の日～
雪男「明日は祓魔任務をやります。」
祓魔生徒一同「ハーイ」
そう言われるとみんなの元に紙が配られた。
雪男「まずはこの紙をみてください」

その紙には2組のチームが書かれてある
1組目は…子猫子、奥村、杜山、ビガンテ
2組目は…勝呂、志摩、神木、宝
と書かれていた。
雪男「その紙に書かれている通りに明日は分かれてもらいます。」
燐「子猫丸、しえみ、ビガンテ明日はよろしくな」
子猫丸「よろしくです」
しえみ「燐、よろしく」
ビガンテ「よろしくです」
勝呂「オイ眉毛(かみき)足引っ張んなよ」
神木「ハァ〜あんたこそ足引っ張んないでよね」
勝呂「なんだと」
志摩「おっ始まった」
宝「・・・」
また、燐を挟んで喧嘩が始まった
燐「俺を挟んで喧嘩すんな」
雪男「それはいいとして明日は1組目は高等部男子寮旧館に来てください2組目はバスの停留所で集まってください」
雪男「それでは今日は解散して明日の準備をしてください」

次回に続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2591z/

魔神を倒す物語

2011年12月10日23時53分発行